

ラウンドテーブル

貝の世界は奇々怪々

日時：11月29日 16:00-18:00

会場：生物生産学部 C314講義室

主催者：関澤 彩眞（大阪市大・院・理）

軟体動物は節足動物に次ぐ大きな分類群だが、その行動はあまり研究されておらず、のろのろと動く単調でつまらない動物と思われがちである。しかし、高度な社会性を発達させたイカやタコ以外にも、卵保護やなわばりの維持など複雑な行動を行う種が知られていて、雌雄同体や性転換など性的表現型も多様である。主に脊椎動物や節足動物を対象として形成されてきた行動理論がさまざまな動物群に普遍的に適用できるのかどうかを検証するうえで、軟体動物は格好の研究対象となる。

このラウンドテーブルでは、貝を対象として行われている最新のアプローチの例を紹介する。まず、中嶋が軟体動物の特徴を概説し、次に木村が、カタツムリが過去の配偶経験をどのように認知し利用しているかについて話す。続いて、石崎ほか、右巻個体と左巻個体との間の不可能にも思える交尾がどのようにして実行されているかを示す。さらに、椿が、カイメンと二枚貝との間の共生関係を紹介し、最後に関澤が、低密度であると誤解されているウミウシにおいて性淘汰が強くはたらいっていることを検証する。

講演予定者：

中嶋 康裕（日大・経済）

「貝の世界への招待」

木村 一貴（東北大・生命）

「カタツムリの繁殖戦略：過去の経験に応じた行動変化」

石崎 悠人（信州大）・Chirasak Sutcharit・Somsak Panha（Chulalongkorn Univ）・浅見 崇比呂（信州大）

「進化ルールを乗り越えたマレイマイマイの交尾行動」

椿 玲未（国立科博）

「二枚貝と海綿における水流を介した相利共生関係」

関澤 彩眞（大阪市大院・理）

「ウミウシの配偶行動からみる同時雌雄同体にはたらく性淘汰」

ポスター講演 1

日時：11月29日 13:30 – 16:30・11月30日 9:00 – 12:00

コアタイム：11月30日 10:30 – 12:00

場所：ポスターA会場 (大学会館大集会室：01 – 40)・ポスターB会場(生物生産学部 A210：41 – 66)

ポスターA会場

P1-01 ケラのサウンドコミュニケーション —前脚による発振の発見—

○林 弥生子・新島 恵子 (玉川大・農)・干場 英弘 (ミツバチ科学情報サービス)

P1-02 捕食者の存在はハマバハサミムシ母親の給餌行動に影響するか

○鈴木 誠治 (北大・農)

P1-03 ヨコヅナサシガメ幼虫に対する卵塊の共喰い抑制効果

○坂田 大介・薬丸 亮太・秋野 順治 (京工繊大 CBF S)

P1-04 活動性に対する人為分断選抜がコクヌストモドキの交尾行動に与える影響

○松村 健太郎・宮竹 貴久 (岡山大院・環境生命)

P1-05 ナミアメンボの雌に出現する短翅型と長翅型の卵生産

○高橋 玄・渡辺 守 (筑波大・生物)

P1-06 ウスバキトンボの産卵特性と我が国への定着可能性

○市川 雄太 (筑波大・生物)

P1-07 キタキチョウの成虫越冬する雌は冬を越せない雄の足元をみる？

○小長谷 達郎・渡辺 守 (筑波大院・生命環境)

P1-08 ホソヘリカメムシにおけるオスの闘争行動の日内変動

○洲崎 雄 (岡山大・院・環境)・宮竹 貴久 (岡山大院・環境生命)

P1-09 2つの機能を持つモモノゴマダラノメイガの求愛超音波

○中野 亮・井原 史雄・三代 浩二・土田 聡 (農研機構・果樹研)

P1-10 フタイロカミキリモドキ与那国島個体群の形態形質と配偶行動

○小汐 千春・藤本 笙太 (鳴門教育大・学校教育)・小笠 航・立田 晴記 (琉球大・農)・工藤 慎一 (鳴門教育大・学校教育)

P1-11 シロアリの個性から自己組織化を斬る： 蟻道建設にみられるコロニー特異性

○水元 惟暁・松浦 健二 (京大院・農・昆虫生態)

P1-12 千匹寄ればシロアリの知恵：卵塊形成アルゴリズムの解明

○岩田 知歩 (京大・農・昆虫生態)・小林 和也・松浦 健二 (京大院・農・昆虫生態)

- P1-13 シロアリの三角関係：王のパートナーの座を巡る妹と他人の攻防
○南波 佑介（京大・農・昆虫生態）・松浦 健二（京大院・農・昆虫生態）
- P1-14 オオハリアリに捕食されるシロアリにも利益はあるのか？
○末広 亘・松浦 健二（京大院・農・昆虫生態）
- P1-15 アリの採餌行動における光の視覚的影響
○藤井 秀行・篠田 諭・山中 治・中 克仁・粟津 暁紀・西森 拓（広大院・理）
- P1-16 クロヤマアリの巣仲間意識はいつ確立するのか -1-
高橋 忠裕・○秋野 順治（京工織大・CBFS）
- P1-17 トビイロケアリの採餌トレイル形成における視覚情報の影響
○篠田 諭・中 克仁・泉 俊輔・粟津 暁紀・西森 拓（広大院・理）
- P1-18 アリの採餌行動における学習の効果
○山中 治・藤井 秀行・篠田 諭・中 克仁・泉 俊輔・粟津 暁紀・西森 拓（広大院・理）
- P1-19 ミツバチの採餌蜂が余分な燃料を運搬することのコスト
○原野 健一・佐々木 正己（玉川大・農・ミツバチ科学）
- P1-20 ウマノオバチのゆとりある産卵行動はなぜ妨害されないのか
○深谷 緑（東大・院・農/日大・生物資源）・日下部 良康（日大・生物資源）
- P1-21 フタモンアシナガバチは巣に近づくのが捕食者か通りすがりの昆虫か識別する
○古市 生・粕谷 英一（九大・理・生態）
- P1-22 ミツバチにおいてダンス蜂の採餌量と餌場距離が追従蜂の採餌に及ぼす影響
○林 雅貴（玉川大・農）・原野 健一（玉川大・ミツバチ科学）・小野 正人（玉川大・農）
- P1-23 ヒメイカの精子塊排除による Cryptic Female Choice の検証
○佐藤 成祥（長崎大・院水環・学振研究員PD）・吉田 真明（遺伝研・生命情報・学振研究員PD）・春日井 隆（名古屋港水族館）
- P1-24 気になるけれど行けない：アオリイカにみる他者認知
○池田 譲（琉球大・理・海洋自然）
- P1-25 集団効果に関わるアオリイカの積極性と消極性の発現について
○西林 孝紘（琉球大院・理工・海洋自然）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）
- P1-26 トラフコウイカにおける学習・記憶能の発達過程
○阿部 翔（琉球大院・理工・海洋自然）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）
- P1-27 シロウミウシにおける配偶行動と繁殖戦略について
○山 梨津乃・朝比奈 潔（日大・生物資源）・関澤 彩眞（大阪市大院・理）・中嶋 康裕（日大・経済）

P1-28 誘引性と忌避性の匂い物質の交互刺激に対する線虫 *C. elegans* の応答

○片倉 堅太郎 (岩手大院・応化生命)

P1-29 ヒトデの起き上がり行動における運動器官の協調的動作

○右田 正夫 (滋賀大・教育)・篠原 修二 (PST 株式会社)

P1-30 カニのハサミの毛房は社会的機能をもつか？

○宮嶋 彩 (奈良女子大院・生物科学)・和田 恵次 (奈良女子大・理)

P1-31 ヤドカリのオス間闘争：同一個体との再闘争は勝者・敗者効果を強める

○安田 千晶・和田 哲 (北大院・水産)

P1-32 ナマズ等の異常行動と地震との関係に関する研究

○三井 美佳 (神奈川工大院)・矢田 直之 (神奈川工大・工)

P1-33 館山湾に生息するベラ科オハグロベラの配偶者選択

○遠藤 周太・福田 和也・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)

P1-34 シロザケ雄は精子を節約するのか？-雌と雄の体サイズの関係について-

○牧口 祐也・北山 武憲・根本 武 (日大・生物資源)・市村 政樹 (標津サーモン科学館)・小島 隆人 (日大・生物資源)

P1-35 餌獲得競争によって形成される集団内サイズ構造のシミュレーション

○上原 隆司 (静岡大・創造)

P1-36 クモハゼ雄の体サイズに応じたスニーキング戦術とその成功率

○川瀬翔馬 (長崎大院・水環)・佐藤成祥 (長崎大院・水環・学振特別研究員 PD)・吉田真明 (遺伝研・生命情報・学振特別研究員 PD)・竹垣 毅 (長崎大院・水環)

P1-37 ハゼ科ベニハゼ属 2 種における性転換と配偶システムについて

○戸松 紗代・小木曾 恵太・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)

P1-38 カワスズメ科魚類における攻撃と八つ当たり行動

○伊藤 宗彦・山口 素臣・沓掛 展之 (総研大・先端科学)

P1-39 同じ巣で同時産卵をするヘビギンポ雌の配偶者選択

○野々垣 初音・幸田 正典 (大阪市大院・理)

P1-40 クサフグの対寄生虫戦略としての河川侵入

○小澤 諒・益田 玲爾・山下 洋 (京大・フィールド研セ)

ポスターB会場

P1-41 魚類における優劣関係の記憶

○堀田 崇・幸田 正典 (大阪市大院・理)

P1-42 ハタ科クエの一夫多妻ハレム社会と雌性先熟性転換

○野際 はるか (海洋大・館山ステーション)・塩田 寛 (伊戸ダイビングサービス)・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)

P1-43 ベラ科ニシキベラの生活史と性転換

○横川 翔大・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)

P1-44 マダイ稚魚の環境選好性におよぼす飼育条件の影響

○高橋 宏司・益田 玲爾 (京大・フィールド研)

P1-45 選択圧の緩和が及ぼす警告色の多様性：自然選択 vs 中立進化

○持田 浩治・戸田 守 (琉大・熱生研)

P1-46 動物行動学は外来種の駆除に貢献できるのか？-種内競争を利用したオオヒキガエルの例について-

○原村 隆司 (京大・白眉センター)・Michael Crossland・Richard Shine (Sydney Univ.)

P1-47 求愛ディスプレイを介した文鳥のコミュニケーション：雌の選好性の検討

○太田 菜央 (北大院・生命科学・生命システム科学)・相馬 雅代 (北大・理・生物)

P1-48 南西諸島のカラ類2種のさえずりに地理的変異をもたらす要因

○濱尾 章二 (国立科学博物館・動物)

P1-49 タンチョウのダンスにおけるつがいと若鳥の比較：ペア・ボンド仮説の検証

○武田 浩平・大槻 久・長谷川 眞理子・沓掛 展之 (総研大)

P1-50 ブンチョウの繁殖における行動の性差とその発達

○阿部 万純 (北大院・生命システム)・岡野 淳一 (京大・生態学研究セ)・相馬 雅代 (北大院・理・生物科学)

P1-51 ダイトウメジロは捕食者のリスクを学習して営巣場所を改善するか

○堀江 明香・高木 昌興 (大阪市大院・理)

P1-52 家禽化による情動行動の変化：ジュウシマツにおける恐怖反応と攻撃性の減少

○鈴木 研太^{1,2}・水原 誠子³・池淵 万季^{1,2}・岡ノ谷 一夫^{1,2,3} (1理研 BSI, 2JST-ERATO, 3東大院・総合文化)

P1-53 セキセイインコにおいてオンラインコミュニケーションは成立するか

○一方井 祐子 (理化学研究所)・岡ノ谷 一夫・関 義正 (東大)

P1-54 ジュウシマツの奥行き知覚：鳴き返し応答を用いた検証

○本部 哲矢・竹内 浩昭 (静岡大院・理・生物)

P1-55 ニホンジカがヒトに示すおじぎ行動は地域・年齢により異なるか？

○秋田 桜子 (奈良女子大院)・○和田 恵次 (奈良女子大)・鳥居 春己 (奈良教育大)

P1-56 飼育下アゴヒゲアザラシにおける水中音声の歌構造と行動文脈について

○水口 大輔・角川 雅俊・幸島 司郎 (京大・野生動物)

P1-57 齧歯類における捕食者認識に対する時間的・空間的適応の影響

○鈴木 圭 (岩大院・帯畜大)・佐川 真由・保田 集 (帯畜大)・鷲本 樹 (岩大院・帯畜大)・古川 竜司 (帯畜大)・柳川 久 (岩大院・帯畜大)

P1-58 シリアンハムスターにおける偶発的記憶の検討

○別役 透・都築 茉奈・岩崎 純衣・岡村 淳・藤田 和生 (京大・文)

P1-59 スナネズミの音声の分類およびその機能と発声制御メカニズム

八代 英敬・○小林 耕太・力丸 裕 (同志社・生命)

P1-60 採餌飛行時におけるコウモリの複数ターゲットに対するソナー戦略の分析

○角谷 美和・渡邊 翔太郎 (同志社大院・生命医科学)・藤岡 慧明 (東京大・JST FIRST 合原プロジェクト)・合原 一究 (理化学研究所)・渡辺 好章・力丸 裕・太田 哲男・飛龍 志津子 (同志社大・生命医科学)

P1-61 ハンドウイルカとハナゴンドウは他個体に配慮する選好性を有するか

○中原 史生 (常磐大)・駒場 昌幸・池田 比佐子・駒場 久美子・野見山 理美・松谷 綾夏・川久保 晶博 (九十九島水族館)

P1-62 行列移動から読み解くマンドリルの社会構造

○本郷 峻 (京大院・理)

P1-63 ヒトの排卵は隠蔽されているのか？

○小田 亮・奥田 明里 (名古屋工大・情報)・武田 美亜 (青山学院女子短大・現代教養)・平石 界 (安田女子大・心理)

P1-64 環境によった自律的な探索戦略の変化：規則を認識する断続モデル

○村上 久・郡司 ペギオ幸夫 (神戸大院・地球惑星)

P1-65 “Sympatric”と“Syntopic”

○椿 宜高 (京大・生態研センター)

P1-66 真正粘菌変形体の伸展パターンを模した包括的数理モデル

○畑中 直樹・伊藤 賢太郎・小林 亮 (広大・理)

ポスター講演 2

日時：11月30日 12:45 – 15:45・12月1日 9:00 – 12:00

コアタイム：11月30日 12:45 – 14:15

場所：ポスターA会場 (大学会館大集会室：01 – 40)・ポスターB会場(生物生産学部 A210：41 – 67)

ポスターA会場

P2-01 メスからもてるオスほど喧嘩を避け、求愛に投資するか？

栗和田 隆 (鹿児島大・教育・生物)

P2-02 アブラムシの捕食回避行動に他パッチ上の捕食者が及ぼす影響

○玉井 一彦・長 泰行 (千葉大院・応用昆虫)

P2-03 交尾経験がオスのセクシャルハラスメント行動に及ぼす影響

○越川 絵理 (千葉大・応用昆虫)・長 泰行 (千葉大院・応用昆虫)

P2-04 サッポロフキバツタの雌は地域集団によって精子の選択方法が異なる

○土屋 香織・菅野 良一・秋元 信一 (北大・農)

P2-05 イモゾウムシの野生寄主選好性-本当はノアサガオにも寄生したい-

○鶴井 香織・熊野 了州 (沖縄防技セ/琉球産経/琉大農・昆虫)・城本 啓子・豊里 哲也 (沖縄防技セ/琉球産経)・松山 隆志 (沖縄防技セ)

P2-06 三つ子の魂百まで？一ブタクサハムシは幼虫時の餌を成虫になっても好むのか

○土居 勇人 (農工大・農)・深野 祐也 (九州大・理)・小山 哲史・佐藤 俊幸・普後 一 (農工大・農)

P2-07 ヨツボシモンシテムシにおける非同調孵化を介した繁殖投資戦略

○高田 守 (農工大院・連大)・小山 哲史・佐藤 俊幸 (農工大・獣医)・普後 一 (農工大院・連大)

P2-08 オオオサムシ亜属の雌雄交尾器形態変異に基づく進化仮説の検証

○高橋 颯吾・高見 泰興 (神戸大・人間発達環境)

P2-09 ヒゲナガカワトビケラ幼虫における営巣行動の変異

○岡野 淳一・奥田 昇 (京大・生態セ)

P2-10 クロナガオサムシの再交尾抑制をもたらす精液物質は濃すぎると効かない

○高見 泰興・林 直緒 (神戸大・院・人間発達環境)

P2-11 多様な交尾戦略をもつオオオサムシ亜属の雄の精子投資調節

○丸山 航・高見 泰興 (神戸大・院・人間発達環境)

P2-12 閉ざされた卵：シロアリ女王が王の知らぬ間に単為生殖する方法

○矢代 敏久・松浦 健二 (京大院・農・昆虫生態)

- P2-13 マザコンのシロアリ：女王なき淋しさを腹を下す子どもたち
○竹内 啓一・松浦 健二（京大院・農・昆虫生態）
- P2-14 負けて勝つ利己的遺伝子：シロアリの女王継承を巡るゲノム刷り込み
○松浦 健二・小林 和也（京大院・農・昆虫生態）
- P2-15 無女王群コロニーにおける雄アリの成長スピードの適応的コントロール
廣部 拓也・○小山 哲史・佐藤 俊幸（農工大・農）
- P2-16 チクシトゲアリ創設女王どうしの栄養交換行動は越冬前後で変化するか？
橋本 絢乃¹・佐々木 謙²・小山 哲史¹・○佐藤 俊幸¹（農工大¹・玉川大²）
- P2-17 速く変わると節約になる？アリの巣仲間認識フェロモンの成分の種類数
○都丸 雅敏（京工繊大・ショウジョウバエ）
- P2-18 トビイロケアリ(*Lasius japonicus*)の長鎖アルキルケトン類に対する認識能
○中 克仁・篠田 諭・西森 拓・泉 俊輔（広大院・理）
- P2-19 ただ居てくれるだけでいい ～捕食圧増加に対する共存の効果～
○山本 達紘（北大・農・生物資源）・八木 議大（北大院・環境資源学）・長谷川 英祐（北大院・環境）
- P2-20 ただ居てくれるだけじゃない ～協同巣における在巣時間の最大化～
○八木 議大（北大院・農・生物生態体系）・山本 達紘（北大・農・生物資源）・長谷川 英祐（北大院・農・生物生態体系）
- P2-21 ミツバチ雄の性成熟と飛行経験に伴う行動変化
○林 晋也・小山 哲史・佐藤 俊幸（農工大・農）
- P2-22 既存理論で説明できない寄生バチの雌偏向性比：適応度測定実験による検証
○安部 淳（神奈川大・理・生物）・上村 佳孝（慶応大・生物）
- P2-23 円網性クモの空間学習
○中田 兼介（京都女子大）
- P2-24 環境エンリッチメントがトラフコウイカの奥行き認識の発達に与える影響
○安室 春彦（琉球大院・理工・海洋環境）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）
- P2-25 アオリイカにおける記憶・学習能の発達過程
○豊崎 宗一郎（琉球大院・理工・海洋自然）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）
- P2-26 トラフコウイカの環境選択とボディパターン表出
○三登 龍一（琉球大院・理工・海洋自然）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）
- P2-27 構成員を変化させた場合のアオリイカ群れの攻撃・防衛対応
○杉本 親要（琉球大院・理工）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）

P2-28 イロウミウシ科の配偶行動と内部生殖器形態の多様性

○関澤 彩真 (大阪市大院・理)・山 梨津乃・村山 大輔・伊藤 なつき (日大・生物資源)・鶴見 ゆり香 (立教大・理)・中嶋 康裕 (日大・経済)

P2-29 ヒラムシのやわらかくしなやかな逃避行動について

○風間 俊哉・小林 亮 (広大院・数理分子生命理学専攻, JST CREST)

P2-30 オカヤドカリの身体知覚について

○園田 耕平・右田 正夫 (滋賀大学・教育)・森山 徹 (信州大学・繊維)・郡司 ペギオ幸夫 (神戸大学・理)

P2-31 コメツキガニの巣穴を巡る闘争行動：ステータスにより異なる戦略

○古賀 庸憲 (和歌山大・教育)・吉野 健児 (佐賀大・低平地沿岸)・熊谷 直喜 (国環研・生物)・池田 早登司 (和歌山大・教育)

P2-32 岡山県笠岡市におけるカブトガニの中長期的な行動と利用場所の変化

○渡辺 伸一・小山田 早織 (福山大・生命工・海洋)・森 信敏・惣路 紀通 (カブトガニ博物館)

P2-33 協同的一妻多夫魚の雌による雄の父性認識の操作：実証的証拠の検討

○李 寧・山内 考太・幸田 正典 (大阪市大院・理)

P2-34 アマゴのおうちを作る—生息地増加へのアプローチ—

○榎島 弘隆・松村 哲 (東海大院・海洋)・齋藤 弘充・高橋 幸之助 (東海大・海洋)・中道 一彦 (気田川漁協)・長谷川 三男 (芝川漁協)・大西 修平・赤川 泉 (東海大・海洋)

P2-35 ハナハゼが“魅せる”求愛と威嚇

木村 瑞紀・○鈴木 翔子 (東海大院・海洋)・白井 和紗 (東海大・海洋)・中地 シュウ (黒潮研)・中野 正夫 (Seahorse)・赤川 泉 (東海大・海洋)

P2-36 サンゴタツ *Hippocampus mohnikei* の生息地選択 僕らの選択条件—流れ・明暗・基質—

○高橋 大樹 (東海大院・海洋)・加茂 耕太郎・道野 真央・土方 智絵 (東海大・海洋)・鈴木 宏易 (東海大・海洋科学博)・大谷 明範 (マリンピア松島水)・赤川 泉 (東海大・海洋)

P2-37 養殖ウナギ—自然界への挑戦—

○佐藤 拓也 (東海大院・海洋)・廣田 美和・辻 悠祐・北村 さやか・赤川 泉 (東海大・海洋)

P2-38 ホンソメワケベラの逆方向性転換—一夫多妻種における低密度仮説の検証

○桑村 哲生 (中京大・国際教養)・門田 立 (水研セ・西海水研)・鈴木 祥平 (琉球大・亜熱帯島嶼科学)

P2-39 ウバウオ *Aspasma minimum* の同性間競争と配偶者選択

○笠井 未来・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)

P2-40 一夫多妻のダンダラトラギスにおける独身化した雄の幼魚防衛行動と逆方向性転換

○小木曾 恵太・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)・桑村 哲生 (中京大)・鈴木 祥平 (琉球大)・門田 立 (水研セ・西水研)

ポスターB会場

P2-41 **クツワハゼ *Istigobius campbelli* の求愛行動と行動圏**

○原田 貴大・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)

P2-42 **オスの保護卵食は性比ではなく実効性比の偏りによって促進される**

○武山 智博 (岡山理大・生物地球)・浪崎 直子・幸田 正典 (大阪市大院・理)

P2-43 **グッピーにおける雌の配偶者選択行動の遺伝性**

○佐藤 綾・狩野 賢司 (東京学芸大・教育)・河田 雅圭 (東北大・生命科学)

P2-44 **シマギンポの雄は繁殖サイクルを持つのか?**

○井手 勇旗・松本 有記雄・竹垣 毅 (長崎大院・水環)

P2-45 **温泉排水流入池に生息するテラピアの雄のなわばり行動、体色と性ホルモン**

○安房田 智司 (新潟大・理・臨海)・鶴田 哲也 (大阪産大・人間環境)・井口 恵一朗 (長崎大院・水産)

P2-46 **トノサマガエルとナゴヤダルマガエルの雌における繁殖期の鳴き声使用**

伊藤 真 (京大院・動物行動)

P2-47 **ヘビ捕食者に対するトカゲとカナヘビの尾振り戦術の違いと自切戦術**

○原田 龍一 (佐賀大・農, 滋賀県大・環境科学)・野間口 眞太郎 (佐賀大・農)

P2-48 **集団飼育下にあるセキセイインコの発声行動の記録と分析**

○関 義正 (東大・進化認知センター)・一方井 祐子 (理研・情動情報連携)・岡ノ谷 一夫 (東大・総合文化)

P2-49 **カラスのコンタクトコールに性差は存在するか?**

○近藤 紀子 (日本学術振興会, 総研大・先導研, 慶大・論理と感性のグローバル研セ)・長谷川眞理子 (総研大・先導研)

P2-50 **実測データに基づくユリカモメの群れ運動の解析**

○右衛門佐 誠・水口 毅 (大阪府大院・数理工学)・早川 美徳 (東北大・教情基セ)

P2-51 **放鳥方法がトキの定着・分散へどのような影響を及ぼしたか?**

○永田 尚志 (新潟大・超域・CTER)

P2-52 **新奇物遭遇時の行動と扁桃核の関わり**

○池淵 万季^{1,2}・鈴木 研太^{1,2}・岡ノ谷 一夫^{1,2,3} (¹理研 BSI, ²JST-ERATO 岡ノ谷情動情報, ³東大院・総合文化)

P2-53 **海鳥の渡りにおける個体行動の再現性**

○山本 誉士 (極地研, 北大・水産)・高橋 晃周 (極地研)・佐藤 克文 (東大・大気海洋研)・岡 奈理子 (山階鳥研)・山本 麻希 (長岡技大)・Philip Trathan (British Antarctic Survey)

- P2-54 見るだけで嫌な味を思い出す！？—警告色が捕食者の記憶に与える影響—
○本間 淳 (滋賀県大・環境生態)・Johanna Mappes (University of Jyväskylä)
- P2-55 近似ベイズ計算を用いた系統種間比較による托卵宿主種数の比較
○川森 愛・沓掛 展之 (総研大・先導研)
- P2-56 ビッグキャットの進化は選択？中立？種内変異に基づく進化シミュレーション
○原野 智広 (総研大・先導科学)・沓掛 展之 (総研大・先導科学・JST さきがけ)
- P2-57 メンバーシップの安定しない集団におけるイヌ同士の親和的關係の形成
○島田 将喜・武智 彩花・数田 慎司 (帝科大・アニマルサイエンス)
- P2-58 ひも引き協力課題を用いたラットの協力行動
○草山 太一 (帝京大・文・心理)
- P2-59 ハドリングと日内休眠の複合利用による小型げっ歯類のエネルギー節約
○江藤 毅 (宮大・院・農工)・坂本 信介 (宮大・フロンティア)・大久保 慶信 (宮大・院・農工)・
越本 知大 (宮大・フロンティア)・櫻村 敦 (宮大・農)・森田 哲夫 (宮大・農)
- P2-60 コウモリの超音波による空間センシング情報に基づく飛行経路決定数理モデル
○渡邊 龍信・風間 俊哉 (広島大・理)・岡 有恵・山田 恭史・飛竜 志津子 (同志社大・生命医科)・
伊藤 賢太郎・小林 亮 (広島大・理)
- P2-61 Jamming 音に対するコウモリの混信回避行動 —タイミングと周波数の変化—
○高橋 依里・俵本 姫里・長谷 一磨・渡辺 好章・力丸 裕・太田 哲男・飛龍 志津子 (同志社大・
生命医科)
- P2-62 飼育下バンドウイルカにおける、妊娠出産にともなう睡眠行動の経時変化
○関口 雄祐 (千葉商科大・商経)・井上 聡 (鴨川シーワールド)・荒井 一利 (鴨川シーワールド)
- P2-63 ニホンザルにおけるコンタクトコールを用いた社会交渉の発達
○勝 野吏子・山田 一憲・中道 正之 (大阪大・人間科学)
- P2-64 ヒトにおける多数派同調と群衆行動
○豊川 航・亀田 達也 (北大・文・行動システム)
- P2-65 ランダムウォークにおける能動・受動のバランス
○崎山 朋子 (神戸大院・理)・郡司 幸夫 (神戸大・理)
- P2-66 どのような条件下で持久戦は成立するか？
○竹内 剛 (京大・生態研)
- P2-67 行動連鎖に基づくロボティックスワームの群れ挙動解析
○和田 七海・保田 俊行・大倉 和博 (広大・工)・松村 嘉之 (信州大・繊維)
- P2-68 ニホンモモンガにおける冬期環境への適応としての生態的諸特性の検討
○小林 朋道 (鳥取環境・環境)

ビデオ講演

日時：11月30日 9:00 – 10:30・14:15 – 15:30

場所：生物生産学部 C314

第一部 9:00 – 10:30

V-01 セイキチョウの求愛タップダンス：高速度カメラによる解析

○相馬 雅代 (北大院・理・生物)・太田 菜央 (北大院・生命)

V-02 ノコギリカメムシの超丁寧な産卵行動と後脚に共生する菌類

○細川 貴弘 (琉大・熱生研)・立川 周二 (NPO 法人自然環境復元協会)・棚橋 薫彦 (産総研・生物プロセス)・貝和 菜穂美 (東大・総合文化)・深津 武馬 (産総研・生物プロセス)

V-03 飼育下アジアゾウ(*Elephas maximus*)における息の吹きかけ行動

○水野 佳緒里・入江 尚子・長谷川 眞理子・杳掛 展之 (総研大・先導科学)

V-04 ハンドウイルカ、ハナゴンドウの物をともなった社会的遊び

○池田 比佐子 (九十九島水族館)・中原 史生 (常磐大)・駒場 昌幸・駒場 久美子・野見山 理美・松谷 綾夏・川久保 晶博 (九十九島水族館)

V-05 捕食者に発見された後に行われるカエルの不動戦術の効果

○西海 望・森 哲 (京大・理・動物)

V-06 ニールセンクモヒメバチによる寄主クモの網操作—操作網の起源と機能—

○高須賀 圭三 (神戸大・農・昆虫多様性)・中田 兼介 (京女大・現社)

第二部 14:15 – 15:30

V-07 ホンソメワケベラの自己鏡像認知：たっぷり見せますビデオ映像

○幸田 正典・堀田 崇 (大阪市大院・理)・安房田 智司 (新潟大・理)・武山 智博 (岡山理大・理)

V-08 蛇に睨まれたツチガエル〜くさい皮膚分泌物による捕食回避〜

○吉村 友里 (九大・シス生)・粕谷 英一 (九大・理)

V-09 餌条件の異なるハタネズミの母親における仔へのふるまい

○楠本 華織 (佐賀大・農)

V-10 ヒナ型フィギュアの行く末：カレドニアセンニョムシクイのヒナ識別実験

○田中 啓太 (立教大・理)・佐藤 望 (立教大院・理・Polish Academy of Sciences)・岡久 雄二 (立教大院・理)・Jörn Theuerkauf (Polish Academy of Sciences)・上田 恵介 (立教大・理)

V-11 葉の先端部分を切り捨てる、コスタリカに生息するオトシブミ科甲虫 *Xestolabus corvinus* の揺りかざり形成行動について

○櫻井 一彦 (成城大・社会イノベーション)